

advance

2004年秋

「東住吉森本病院」
移転新築に向けて

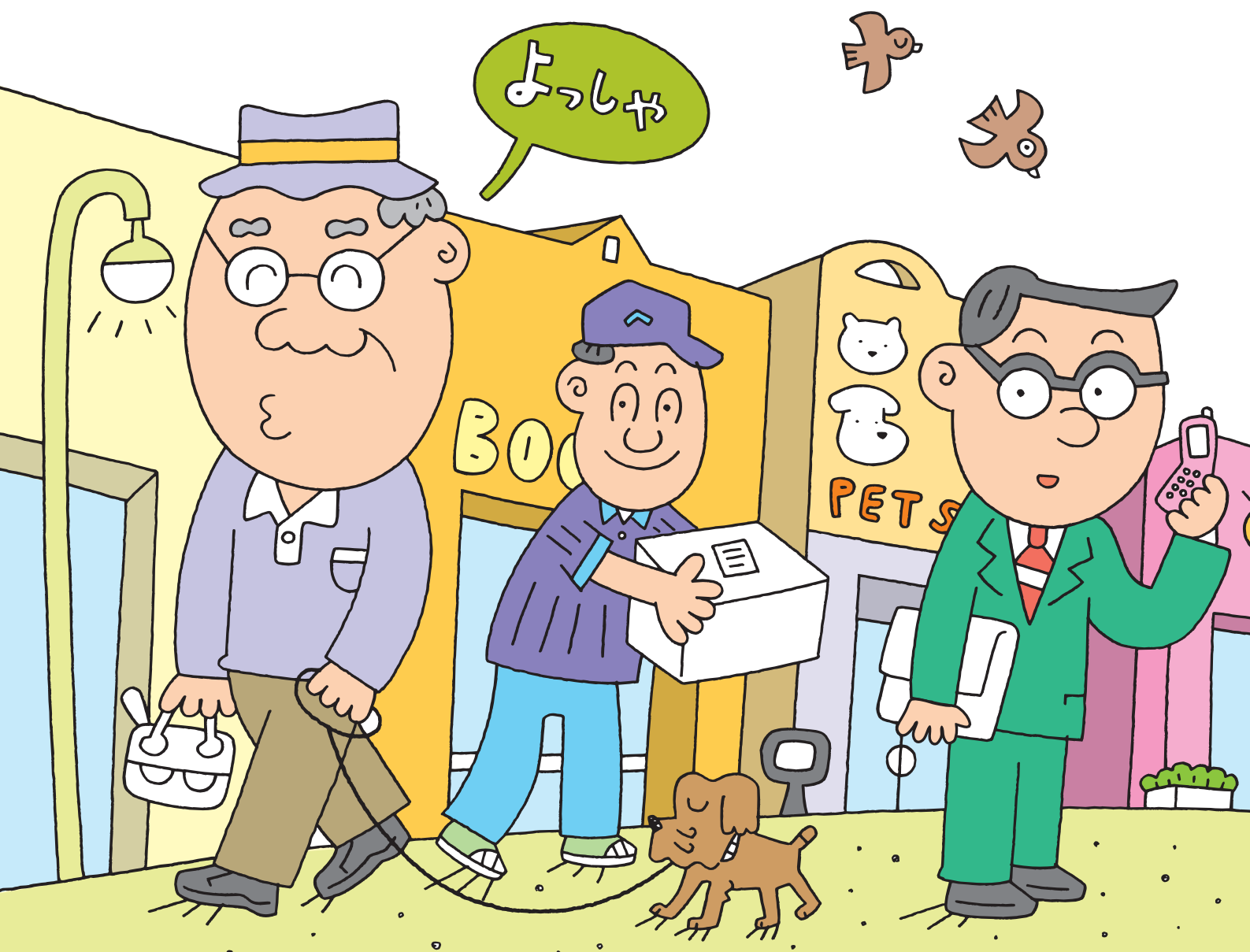
新しい 東住吉森本病院を つくります。

東住吉森本病院は、これまでお世話になった街を離れて、ちょっと西南へ移動します。東住吉森本病院は、「地域医療支援病院」というのをステップとして、理想の地域医療をめざしているのですが、ちょっと手狭になってしまいました。今の場所はちょっと住宅が立て込んできて、これ以上広げることができないし、それで思い切って移転して、新しい病院をめざすことにしたのです。え？「私たちを見捨てるの」って？いえ、とんでもない。地域の皆さんのために思えばこそ、なんですから。



東住吉森本病院って、 なんやる？

A. 私たちの街になくってはならない
病院であり続けます。



1. ▶ 病院を取り巻く環境は、大きく変わる。

病院に関する法律や制度は、どんどん変わっていきます。老人医療費10%負担、健康保険本人30%負担等々。入院期間はなるべく短くとか、大きな病院にかかろうと思うと2000円取られたり・・・
何故、こんなに変わるのでしょうか。それは今の医療のカタチを保つのにお金がかかりすぎて、もはやわが国の財政事情では支えきれなくなってきた、つまり台所事情、というわけです。

2. ▶ 今、地域医療は。

これからの地域医療は、地域の診療所と、病院がそれぞれの特性や持っている機能などに合わせて、役割を分担していこうとしています。

具体的には、「かかりつけ医」制度、と言います。いきなり大きな病院へ行くのではなく、まずいつも行っている診療所へ行く、そこで必要に応じて紹介状を書いてもらい、病院へ行くというわけです。こうすれば、大病院はいつも満員状態で、3時間待って受けられる診療は3分間、なんてことも少なくなるはずですよ。

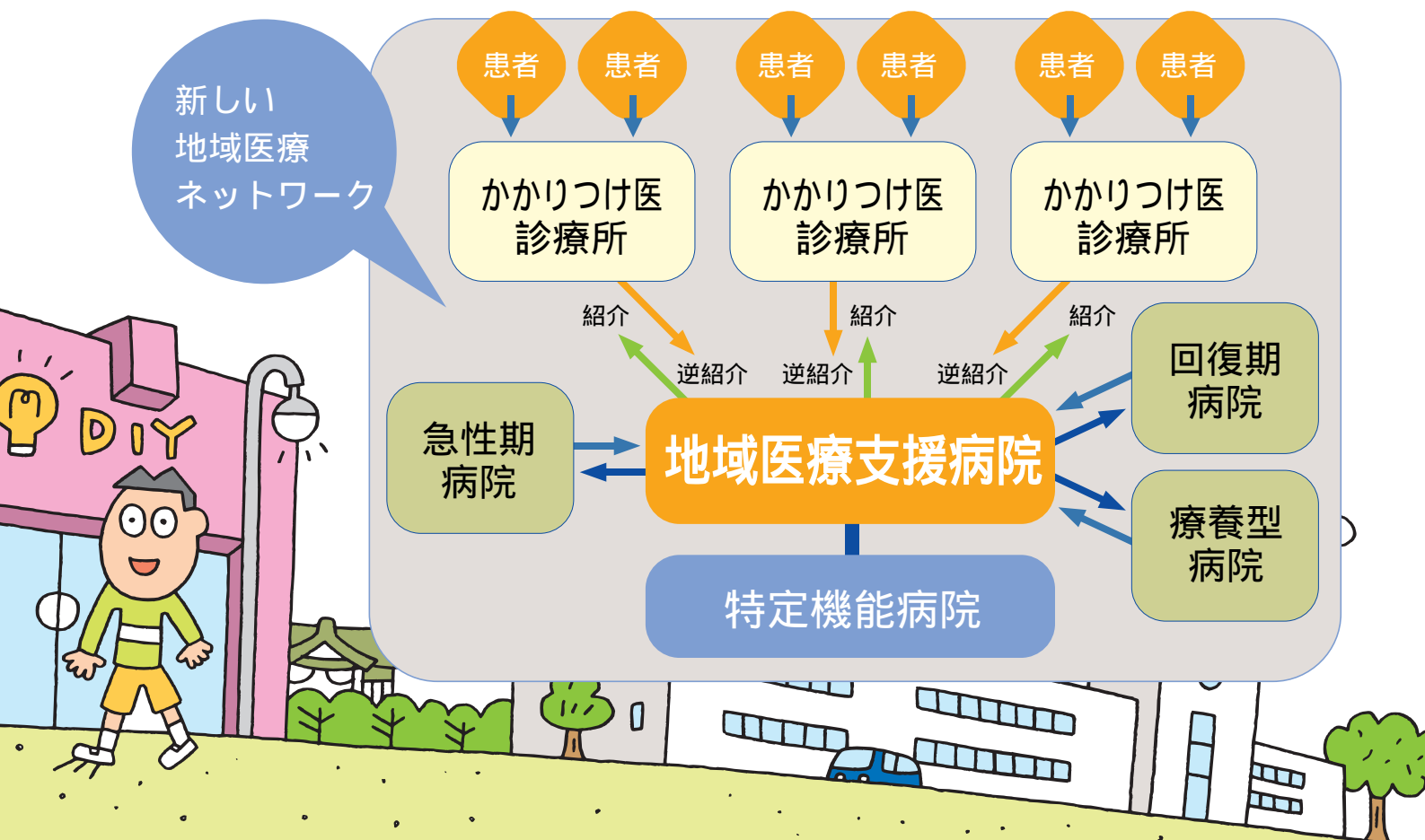
3. ▶ そこで、今。新しい病院が必要になりました。

こんな時代に東住吉森本病院は、どんな病院であることをめざしているのでしょうか？

それは「地域医療支援病院」と呼ばれる病院。具体的には・・・

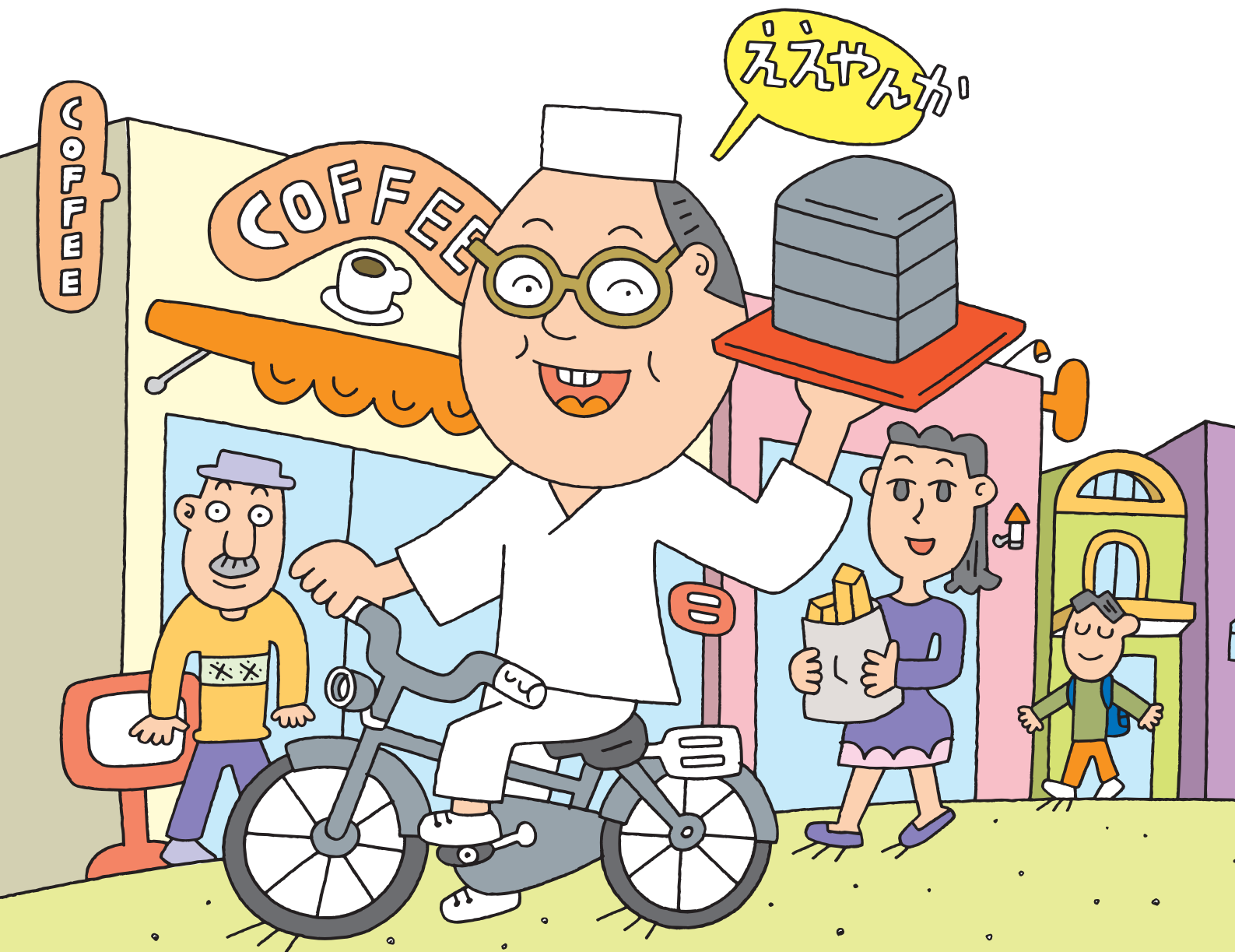
- (1) 地域のかかりつけ医の医師から紹介された患者さんが、当院の患者さんの80%を越えています。
- (2) 地域のかかりつけ医の医師と、ベッドや高額の高高度医療機器等を共同利用しています。
- (3) 地域のかかりつけ医の医師と共に、医療の質の向上のため研修などを行っています。
- (4) 救急の患者さんに対する万全の体制を整えています。

というわけです。これが「地域医療支援病院」。漢字ばかりで難しい名前ですが、要は地域の医療がちゃんと患者さんのためにいい状態であるために、診療所の先生と協力しながら、さまざまな努力をする病院ということです。この「地域医療支援病院」をもっともっと理想に近付けるためには、今の病院は古くなりすぎてしまいました。



なんで、
引っ越すねん。

A. 私たちのめざす理想の病院を
実現するためです。



1. ▶ 「地域医療支援病院」は「みんなの病院」

「地域医療支援病院」は大阪府でも初、全国でも50施設（2003年3月現在）しかありません。

これだ！というモデルが無いこともあり、さらに厚生労働省の描くビジョンでも、まだまだはつきりしないことがたくさんあります。しかし私たちは、「地域医療支援病院」をステップとして、理想の地域医療を築くために、私たちはこんな風になりたいと考えています。つまり、それは「みんなの病院」。

地域の診療所の先生方に、私たちの機能や施設、設備を存分に利用していただき、

地域住民や地域の患者さんの納得できる、満足できる医療を提供する、そのためにすべての壁を取り払い、

門を開け放って、地域医療に従事する医師から、入りやすい、行きやすい、参加しやすい、

と思っただけ「開かれた病院」をめざします。

消化器・循環器・ 脳卒中のセンター設置。

「消化器センター」に加え、「循環器」「脳卒中」の分野においてもセンター化します。つまり消化器系、循環器系の疾患、そして脳卒中に関することなら、何でもお任せです。1カ所で総合的に、また集中的に治療を受けることができ、患者さんも安心です。

専門外来の設置。

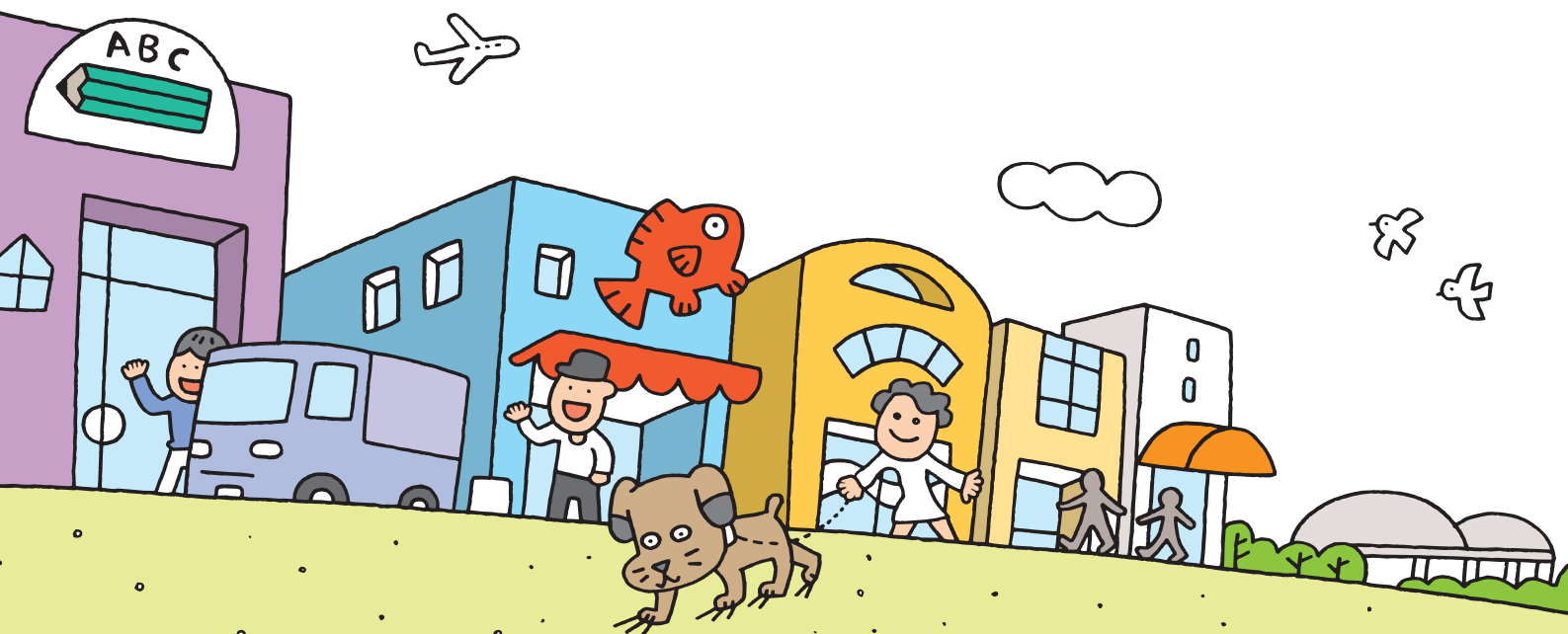
当院ならではの得意分野を活かした「専門外来」ができます。地域の診療所の先生方にとっても、どこの病院に紹介すればいいかが明確になります。患者さんにとっても、「専門医がいて専門的な医療を受けられる」という安心感があるはず。

日帰り手術センター の設置。

その日のうち、もしくは1泊2日程度で退院できる「日帰り手術センター」を開設しています。対象となるのは、その部分さえ手術してしまえば全くの健康人という方たち。米国では全手術の約80%、北ヨーロッパでも約50%が日帰り手術となっています。

情報提供・公開。

患者さんに対しては、インフォームドコンセントを徹底し、治療方法をオープンにし、「治療の内容を知る」「治療方法を選ぶ・拒否する」といった患者さんの基本的権利を守ります。さらに患者さんのプライバシー保護や、人間として尊重される権利を守ります。また、地域の方々が健康的で生き生きと暮らすためのさまざまな情報を提供します。

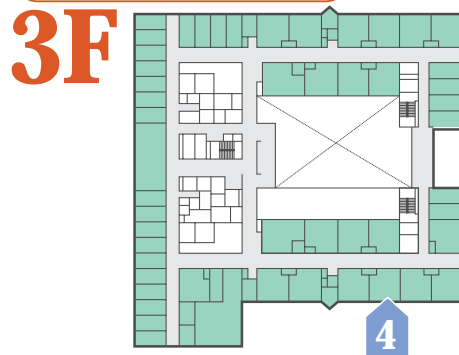


今までと、
どう違うんや。

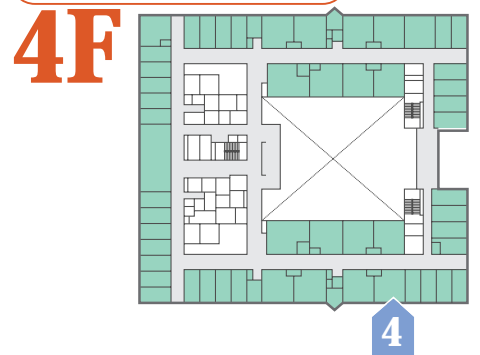
A. この設計図が、
すべてを語ってくれています。



脳卒中センター



消化器センター



1▶ 救急医療機能

24時間365日の救急体制。

新病院では、救急ゾーンをこれまでの倍以上のスペースとし、万一救急患者さんが複数重なった場合も余裕を持って対応が可能です。さらに救急車の到着から診察、検査、手術といった一連の流れがスムーズに、かつ短時間でできるよう「動線」を徹底的に見直しました。処置室のすぐ前に検査ゾーンを配置、手術室には専用エレベータで直行します。また、救急患者さん専用の観察室に隣接してご家族のための待合室を設置。患者さんの状況をお知らせします。

2▶ 高度診断機能

最先端の医療設備・機器を揃えました。

最先端の医療設備・機器を揃えました。診療所からの紹介患者さんは、各診療科の専門医が診察します。X線CT、MRI、アンギオ、内視鏡等、最先端の医療検査・診断機器を揃え、より迅速で確実な診断を行います。さらに将来CT付PET（ペット）といった先進的な機器を導入できるよう、空間に余裕を持たせています。なお診断結果、検査データ、またこれらを基にした治療方法等の情報は紹介医療機関に提供され、その後の診療所、病院での治療に役立てられます。

循環器センター

5F



3▶ 集中治療機能

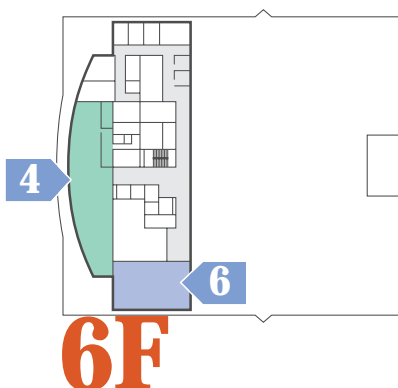
短期間に集中して患者さんに高度な治療を施します。

手術室は5室に増設し、緊急の患者さんや紹介患者さんにより迅速に対応、無駄な待ち時間を解消します。将来的には診療科別の専用手術室とし、より専門的・機能的な使用に対応できるように計画中です。また器材、材料などの搬入と搬出の動線を分化し、院内感染に配慮しています。またICUについては10床あり、24時間体制で患者さんを見守るクリーンルーム化された完全型ICUとなっています。また2階の日帰り手術センターでは6床を設けて、日帰り手術に対応。もちろん念のための1泊程度の入院も可能となっています。

4▶ 入院治療機能

3つのセンターを中心に、高度な入院治療を提供します。

3階には脳卒中センター、4階には消化器センター、そして5階には循環器センターを設け、各センターを中心に、いずれの病棟でも集中して専門的な入院治療を提供します。また、入院生活の快適さにも心を配り、全病室にトイレ、ロッカーを、食事については各フロアに食堂を設置、さらに最上階には長居公園を一望のもとに見渡すことができる食堂もあります。スタッフステーションはオープンカウンターで、看護師がつねに病棟への気配りをすることができます。さらにセンサー機能のついた照明、手洗い、バリアフリーの床など、患者さんの視点で入院設備のあり方を追求しています。



5▶ 紹介外来機能

紹介患者さんのための落ち着いた外来スペース。

診療所の先生からのご紹介により、当院で専門的な治療をお受けになる患者さんのための外来スペースです。診療室は診療科ごとに機能的に配置しました。

6▶ 教育機能

地域医療に携わる人々の医療レベル向上のために。

地域医療支援病院として、当院は地域医療従事者の医療レベル向上に貢献していきます。このため2階にある図書室は言うまでもなく、会議室、大会議室、さらには6階の講堂等も地域医療のために開放していきます。医師をはじめ医療従事者同士の勉強会や研究会、セミナー等を実施し、地域医療全体のレベルアップに役立てていただきます。

7▶ 情報発信機能

地域の人々が生き生きと健康に暮らせるために。

1階エントランスホールでは、患者さんや地域住民の方々に対して「かかりつけ医制度」についてのご説明や、地域の診療所、他の病院のご紹介など、地域医療に関するさまざまな情報を提供していきます。また、健康的な生活を送るために必要な医療・健康に関する情報も提供し、地域全体の健康を守る役割も果たしていきます。

患者さんや地域住民に対するご相談、情報提供のためのスペースを設けました。

患者さんに対しては、治療に関する詳細な説明が、落ち着いた雰囲気の中でできるようIC（インフォームドコンセント）ブースを設けました。また医療ソーシャルワーカーが常駐、個室のご相談ブースにて、患者さんやご家族の抱える経済的・心理的・社会的な問題に対応、患者さんが適切な治療を受けられ、早く社会復帰できるよう調整・解決のお手伝いをいたします。

患者さんの健康を第一義とし、
地域に開かれた医療を提供します。

ミッション *使命

対話と連携を重視し、地域の健康と安心に貢献します。

東住吉森本病院は、急性期医療サービスの主要な担い手として、紹介・救急、入院の機能を重視し、患者さんの健康を第一義として地域に開かれた医療を提供します。

1. 患者さんの立場に立った対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

ビジョン *あるべき姿

「地域に必要とされる病院」をめざします。

良質かつ高度な急性期医療サービスを提供するため、当院は「地域に必要とされる病院」をめざし、その実現に向けてさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。

1. 急性期医療（特化した専門の医療）を提供します。
2. 地域医療支援機能を有します。
3. 地域診療所の先生方との共同診療（開放型病床の利用）による開かれた医療を提供します。